

西野だいすけ通信

衆院選特集号 (第9号)

熊本の新しい力^{39歳}



皆さま、こんにちは。西野だいすけです。「西野だいすけ通信」を手にとっていただき、ありがとうございます。

今回は、衆院選特集号(第9号)として、昨秋行われました衆議院議員総選挙での初陣を振り返るとともに、今後に向けて、新たな決意を申し上げます。

- ◆ 昭和53年生まれ 39歳
- ◆ 熊本生まれ、熊本育ち
飽田町(現・熊本市南区)出身
藤園中学校/熊本高校 卒業
- ◆ 東京大学 法学部 卒業
- ◆ 元 財務省 主計局主査
- ◆ 第48回衆議院議員総選挙候補者
※熊本2区で62,575票を得るも、落選

1. 初陣

(1) 武者震い ~戦いの幕開け~

9月中旬、唐突に、「衆議院、解散・総選挙へ」という報道が相次ぎました。始めは、半信半疑でしたが、先輩国会議員の方々と連絡を取る中で、徐々に「ありそうだ」ということが分かってきました。そして、総選挙への流れが確定的になった瞬間から、武者震いが止まりませんでした。「さあ、いよいよ初陣、やるぞ!」というエネルギーが湧いてきました。怒涛の1か月が始まりました。

事務所探し、事務所開き、各地でのミニ集会、ポスターやパンフレットの準備、マスコミ対応、出陣式や遊説の段取り、総決起大会など、やるべきことが次から次に押し寄せてくる中で、今思えば、選挙は初めてというメンバーばかりの素人軍団が、よくこれだけの選挙を戦い抜くことができたな、と驚きます。私の力不足で負けたとはいえ、これだけの選挙を取り仕切ってくれた、スタッフはじめ多くの支援者の皆さまには、感謝しかありません。感謝、感謝です。



討議資料

西野だいすけ通信 衆院選特集号 (第9号) 平成30年1月発行

熊本事務所：熊本市南区田迎5-1-30
(TEL) 096-379-6079
(新) 玉名事務所：玉名市中1675-1
Email：info@daisukenishino.com
URL：http://daisukenishino.com

後援会ご加入のお願い!

西野だいすけの政治理念にご賛同いただき、後援会へ加入していただける方を募集しています。チラシの配布など、できることをできる時間でやっていただければありがたく存じます。後援会にご関心のある方は、ご連絡ください。

(2) やる気と焦り ～選挙前～

いざ、準備となると、やる気ばかりが先行し、何から手を付ければいいのか分かりません。後援会の連絡体制がほとんどできていない状況だったため、まずは、この1年間の政治活動で携帯電話に新規に登録した千数百名の皆さまに、ひたすら電話をかけて、選挙への協力をお願いしました。車での移動中、食事をしながら、服を着替えながら、空いた時間すべて使いますが、それだけで相当の時間を費やしました。

また、選挙自体を担ってくれるスタッフもほとんどいない状況で、選挙体制の構築にも手間取りました。事務所ひとつ決まらない中で、だれが何をどう取り仕切るのか、分からない＆決まらないことだらけで、本当に選挙を戦うことができるのか、焦りました。

選挙体制の構築を急ぎつつ、昼夜を問わず、とにかく必死に多くの人と会いました。昼間は、運動会にお邪魔して一日千人を超える方々と握手をしたり、ミニ集会で演説したり、夜になれば、街に出て、チラシを配布したり、思いつくことはやれるだけやりました。そして、深夜に帰宅した後、政策を載せたチラシなど、資料の作成に追われました。ほとんど寝れない日が続きました。

精神的にも肉体的にも非常に厳しい第一波に襲われた時期でした。

本来であれば、全精力を外に向けるべき時期に、内向きな体制の構築や事務作業に追われ、初動が遅れたことは、大きな反省点の一つです。



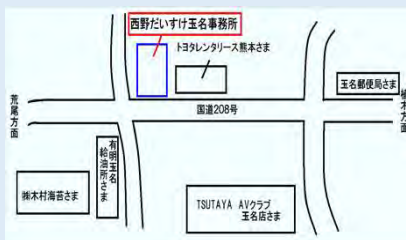
(3) 興奮 ～選挙戦初日～

10月10日、火曜日。ついに公示日を迎えました。支援者の皆さまや仲間たちのおかげで、何とか、出陣式までこぎつけました。当日は、神聖な気持ちで迎えることができました。そして、いざ、支援者の皆さまの前で第一声を発するとき、たいが興奮しました。感謝の気持ちと同時に、「よし、やってやるぞ」という気持ちが沸き上がりました。夕方には、玉名でも出陣式を行いました。暗い分、神秘さが増し、とてもいい雰囲気の中、精いっぱい心を込めて、演説させていただきました。泣きながら聞いてくださる方も多くいらっしゃいました。

両方併せて約1,200名の方にお集まりいただき、おかげさまで、無事スタートが切れたと思えました。

西野だいすけニュース③【玉名事務所開設】

この度、熊本事務所に加え、新たに、玉名事務所を開設しました。玉名市の中心部に位置し、利便性の高い場所と自負しております。今後は、この事務所を中心に、荒玉地区での支援の輪をさらに広げるべく、政治活動に邁進する覚悟でございます。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



(4) 不安と恐怖 ～選挙戦序盤～

選挙戦序盤。初日は、興奮状態で、難なく乗り切りましたが、2日、3日と続くと、そう簡単ではありません。睡眠不足の上に、飲まず食わずで、数えきれないぐらい多くの人たちと満面の笑顔で握手を繰り返します。加えて、多い時で一日十数か所で演説を繰り返し、選挙カーの中でも、声を張り上げて、主義主張を訴えます。これが12日間続くと思うと、本当に最後まで戦い抜くことができるのか、不安になりました。

また、公示後すぐに、各種世論調査が実施され、情勢分析の結果が報道されました。芳しくない情勢でした。これだけのエネルギーを使って、多くの人を巻き込んで迷惑をかけて、負けてしまったらどうしよう。選挙費用がどれほど膨れ上がるか見当もつかない中、負けたらどうやって賄うのか、恐怖に押しつぶされそうでした。

4日目5日目。追い打ちをかけるように、喉が完全につぶれてしまいました。1年前から街頭での辻立ちを繰り返し、普通の人より喉は鍛えてきたつもりでしたが、一日合計6～7時間を超える演説に耐えられるほど、鍛えられていませんでした。

厳しい選挙情勢に加えて、飲まず食わずでエネルギーを使いまくっているのに、私の思いを有権者の皆さまにお伝えすることもままならない自身の状況。精神的にも肉体的にも非常に厳しい第2波に襲われた時期でした。



(5) 覚悟 ～選挙戦中盤～

選挙戦中盤。選挙情勢も、精神も肉体も厳しい状況が続く中、支えてくれたのは、やはり、支援者の皆さまであり、共に戦ってくれる仲間たちでした。私が、不安と恐怖に駆られている間にも、彼らは、勝利を信じて、必死に戦ってくれていました。西野支持を訴え、選挙区内のあちこちを駆けずり回る人、選挙遊説の段取りをする人、チラシの作成やシール貼りに汗をかく人、電話をかけまくる人。本当に頭が下がる思いでした。

さかのぼること1年前、とある会社の社長が、私に、候補者としての心構えを説いてくれました。「大将は、何があっても泰然としておかなければいけない。選挙期間中は、色んなことが起こる。いい情報も悪い情報もたくさん入ってくる。肉体的にも精神的にも本当にきつい。それでも、大将は、右往左往してはいけない。リーダーとしての基本中の基本だ。」というものでした。

諦めることなく、必死に応援してくださる仲間たちの姿を見ながら、私は、その社長の言葉を何度も自分に言い聞かせました。

「何が何でも勝つ」その覚悟が固まった瞬間でした。

(6) 勢いと高揚感 ～選挙戦終盤～

選挙戦終盤。遅ればせながら、陣営の勢いを感じ始めていました。

選挙事務所内の役割分担も固まり、何のしがらみもないスタッフ間のチームワークは抜群です。事務作業も落ち着き、それまで、内向きの事務作業を手伝ってくれていた支援者の方々や母や妹、叔父叔母たちも、ようやく外回りをして、私の支持を訴えることができる状況になってきました。

また、頼んでもいない会社や個人から、後援会入会の名簿がFAXで次から次に送られてきました。遊説の最中にも、手を振ってくださる方が増え、「期日前投票で西野君に入れてきたよ」と言ってくくださる方にも多く出会うようになりました。

そんな中、19日には、ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイで総決起大会を開催しました。大会では、あれだけスピーチを拒絶していた母も、「支援者の皆さまにお礼を言いたい」という思いで、ご参集いただいた約700名の前で、マイクを握らせていただきました。動員が苦手な西野陣営としては、予想をはるかに超える多くの方々にお越しいただき、会場は、高揚感に包まれていました。

翌20日は、南関町うから館、荒尾総合文化センターの2か所で総決起大会を開催しました。私の師匠である古賀誠先生も応援に駆けつけてくださったおかげで、周知期間が短いにもかかわらず、驚くほど多くの皆さまにお集まりいただいて、大会は、大いに盛り上がりました。

各マスコミからの悪くない情報に加えて、終盤に入ってからこの盛り上がり。陣営は、「ひょっとすれば、大逆転もありうるかもしれない」という手応えを少し感じ始めていました。

(7) 感謝と感動 ～選挙戦最終日～

10月21日、土曜日。いよいよ選挙戦も最終日を迎えました。選挙戦序盤にはどうなることかと思っていた遊説も、今日一日限りです。朝からすでに、寂しい気持ちになっていました。

遊説の最中も、応援してくださった方々への感謝の気持ちと何とも言えない感動が、何度もこみ上げてきました。遊説を終えて、選挙事務所に向かう選挙カーでは、うぐいす嬢たちも、いつも以上に力を込めて西野だいすけへの支持を訴えてくれました。

最後のマイク収めでは、子供たちもたくさん来てくれました。支援者の皆さまに感謝の気持ちを申し上げるとともに、子供たちへの思いも訴えました。最後は、感謝と感動のあまり、不覚にも、号泣してしまいました。

一息ついてから、仲間とともに、雨の中、再度、街頭に立ちました。日付が変わるまで付き合ってくれた仲間に、最後まで感謝、感謝です。



(8) 感謝と申し訳なさ

10月22日、日曜日。いよいよ運命の投開票日です。朝起きて、家族と投票に行きました。初めて、選挙で自分の名前を書きました。少しだけ、手が震えました。投票を終えて、会場の外に出ると、小学生の子供たちに囲われました。「あ、西野だいすけだ！お母さんが、この人に入れるって言ってた！」子供たちからの予想外の反応に、思わず、うれしかったです。

午後8時。開票が始まりました。私は、自宅で待機していました。ドキドキしながら、開票を見守っていましたが、午後10時40分、他の候補者に当確が出て、私の落選が決まりました。厳しい戦いとは分かっていた

でも、いざ、落選となると様々な感情が湧いてきました。気持ちを整理する間もなく、急ぎ、選挙事務所で待ってくださっている支援者の皆さまの下に向かいました。事務所では、泣いてくださっている方もいました。応援してくださった方々が、悲しい悔しい表情されているのを見るのが、一番辛かったです。西野陣営は、仕事や家事を犠牲にして、ボランティアで選挙活動をしてくださった支援者の方ばかりです。支援者の皆さまには、「骨折り損のくたびれもうけ」という言葉さながらの大変な思いを強いてしまい、本当に申し訳ない思いでした。そして、自分の力不足に情けなく思いました。

熊本2区 開票結果

野田毅	86,027票
西野だいすけ	62,575票
和田要	26,074票
木下順子	6,095票

2. 再出 発

10月23日、月曜日。敗戦の翌朝、街頭に立って、辻立ちを再開しました。「負けても、人生終わったわけじゃない。応援してくれた人たちのためにも、へこたれてはいけない。元気な姿を見せたい。」そう自分に言い聞かせながら、街頭に立ったような気がします。目の前には、いつもの風景が広がっていました。いつものように、太陽が昇って、いつものように、通勤通学する人々で溢れていました。そして、驚くほど多くの皆さまから、ご声援を頂きました。いつも以上に、心にしみるご声援でした。涙が出る思いでした。

そして、選挙から2か月たった今、次なる戦いに向けて、政治活動に邁進する日々を過ごしています。辻立ちやお世話になっている方々への挨拶回り、各種後援会の立上げの準備など、おかげさまで毎日忙しくしております。夜も、選挙後一日も欠かさず、懇親会や忘年会にお誘いいただき、体重もすっかり選挙前に戻ってしまいました(汗)選挙に負けても、応援してくださる方々がいる。本当にありがたいことです。そして、一人でも二人でも多くの皆さまに応援していただけるように、これからも、パワーを使って、全身全霊で政治活動に励んでいきたい、そう、心に決めています。



西野 だいすけ プロフィール

昭和53年9月22日熊本県飽託郡飽田町砂原（現・熊本市南区砂原町）生まれ。飽田東保育園卒園、熊本市立城東小学校、藤園中学校、熊本県立熊本高校、東京大学法学部卒業。平成15年財務省入省。米国コロンビア大学公共政策大学院修了後、大臣官房秘書課課長補佐、復興庁参事官補佐、主計局主査などを経て、平成28年財務省退官。平成29年10月衆議院議員総選挙に熊本2区から出馬。62,575票を得るも、落選。

3. 新たな決意

昨秋、初陣に挑みました。結果は、落選でした。多くの皆さまに、多大なご支援を賜りながら、このような結果になってしまい、本当に情けなく、申し訳なく思っています。そして、自分の力不足を痛感しています。熊本2区の皆さまの代表として、国政の場で仕事をさせていただく資格がなかったのだと、そのための苦勞も苦しみもまだまだ足りてなかったのだと、強く感じました。同時に、40歳手前の中年男が、仕事を辞めて、選挙にも負けて、この先、どうなるんだろうという不安も恐怖も湧いてきました。

しかし、多くの皆さまのご支援のおかげで、62,575票という多くのご支持を頂いた以上、皆さまの期待に応えるべく、努力を重ねる責任があると思います。もちろん、私自身の思いとしても、諦めたくはありません。

皆さまの思いを背負って、戦っていきたい

財務省を辞めて、ふるさと熊本で政治活動を始めてから早くも1年半以上が経過しました。この間、多くの皆さまとの出会いの中で、多くの思いを承ってきました。日本の将来に対する思い、ふるさと熊本への思い。若い世代が、政治に何を期待しているのか、期待していないのか。農家や漁師の方々が、どんな苦勞をして、海苔を、ミカンを、トマトを作っているのか。中小企業の経営者の皆さまが、どんな思いで税金を払っているのか。多くの皆さまの思いに、そして、人生の一端に接してきました。そんな中で、私の政治に懸ける思いは、本物になってきたと思います。私は、皆さまの思いを背負って、国政の場で戦いたい。そのためにも、試練を乗り越えたいと思います。

皆さまとともに、新しい時代を切り拓いていきたい

また、選挙期間中だけでなく、その前後も含め、一生懸命応援してくださる支援者の方々や、共に戦ってくれる仲間がいます。政治の世界というのは、生易しいものではありません。私自身が、面と向かって罵声を浴びせられたり、街頭に立ってマイクを握って恥をかいたり、と苦勞を重ねるのは当然のことですが、支援者の方々も、私を応援することで、様々な不利益が起こりうるのだと思います。それでも、西野だいすけを応援することが、日本をよりよくする、熊本を前に進めていくことにつながると信じ、自分の不利益を顧みずに、共に戦ってくださる多くの支援者の方々があります。

私は、従来より、現在の日本や熊本が抱えている課題を踏まえ、①安心・安全に生活するための社会の基盤を維持・強化していく、②様々な分野で、挑戦したい人たちが挑戦しやすい環境を整備するとともに、より多くの人々が挑戦したいと思える社会を実現する、③「輝く熊本」を創るため、雇用の創出と住みやすいまちづくりを車の両輪として、人口流出に歯止めをかける、の3つを柱に据えて、新しい時代を切り拓いていきたいと申し上げてきました。今でも、その思いは変わりません。

私は、もみくちやにされ、ボコボコにされながらも、共に戦ってくださる多くの皆さまとともに、よりよい日本を、新しい熊本を、切り拓いていきたい。そのためにも、精進を重ねたいと思います。

皆さまに、エネルギーを与えることができるように生きていきたい

選挙後、多くの皆さまから、励ましのお言葉や激励のメッセージを頂いております。仕立ちの最中に、車の中から、あるいは、散歩の足を止めて、「頑張れ～」というお言葉を頂きます。また、メールやインターネットを通じて激励のメッセージを頂くこともあります。同世代の方々から、または、子供たちから、「西野だいすけ、武者んよか～」と言っていただくこともあります。落選直後の私にとっては、本当にありがたいお言葉ですし、涙が出る思いです。多くの皆さまから、再び立ち上がる勇気とエネルギーを頂いております。

今は亡き、小渕恵三元総理大臣が、生前、「我々が、後世に遺せる、最大の遺物は、志高き崇高な人生そのものだ」と語っていたそうです。志を高く持って、どんな困難にも負けずに努力を重ね、挑戦を続ける人生そのものが、後世の人々に勇気とエネルギーを与え、最高の贈り物になる、という意味だと思います。エネルギーを与えられる人から、与える人へ。今を生きる人々にも、将来を生きる人々にも、エネルギーを与えることができるような生き方をしたいと思います。そのための挑戦は、まだまだ始まったばかりです。

皆さまからの引き続きのご支援、さらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

西野 太亮